

宇部市成長産業推進協議会 運営委員会 議事録

1 日時 令和6年2月19日(月) 13:30～15:30

2 場所 本庁舎3階3-3会議室,防災情報センター

3 出席者(敬称略)

<運営委員>

| | 所属・役職 | 氏名 | 代理出席 |
|------|-----------------------------------|-------------|------------------------------|
| 商工団体 | 宇部商工会議所 会頭 | 杉下 秀幸 | |
| 企業 | UBE株式会社 上席執行役員 | 高瀬 太 | 宇部渉外部インフラグループ リーダー 今井 恵二郎 |
| | セントラル硝子株式会社 執行役員 宇部工場長 | 森野 譲 | 工務部長 坂井 繁則 |
| | 西日本電信電話株式会社 山口支店長 | 西 一仁 | 副支店長 光本 幸夫 |
| | 株式会社ヤナギヤ 代表取締役社長 | 柳屋 芳雄 | 相談役 藤本 哲憲 |
| | ユूपीアール株式会社 代表取締役 社長執行役員 | 酒田 義矢 | |
| 大学等 | 国立大学法人山口大学 大学院医学系研究科長・医学部長 | 篠田 晃 | |
| | 国立大学法人山口大学 大学院創成科学研究科長・工学部長 | 山田 陽一 | 欠席 |
| | 国立大学法人山口大学 大学院技術経営研究科長 | 稲葉 和也 | 欠席 |
| | 独立行政法人国立高等専門学校機構 宇部工業高等専門学校 校長 | 金寺 登 | 欠席 |
| 金融機関 | 株式会社山口銀行 執行役員 宇部支店長 | 中嶋 羊治 | 欠席 |
| | 株式会社西京銀行 執行役員 宇部支店長 | 岡田 一夫 | |
| | 西中国信用金庫 宇部支店長 | 片岡 謙蔵 | |
| 支援機関 | 地方独立行政法人 山口県産業技術センター 理事長 | 川村 宗弘 | プロジェクト推進部長 松本 佳昭 |
| | 公益財団法人 やまぐち産業振興財団 副理事長 | 福田 浩治 | 事務局長 山本 庸子 |
| 自治体 | 山口県産業労働部長 | 小関 浩幸 | イノベーション推進課長 兼清 未知留 |
| | 宇部市長 | 会長 篠崎 圭二 | |

<関係者>

ヘリックスエクステンション株式会社 代表取締役 富田 悟志 (オンライン参加)

株式会社三菱総合研究所 主任研究員 佐々木 玄太

<事務局>

産業経済部 部長 濱田 修二、次長 林 孝之

成長産業創出課 課長 中村 勇一郎、副課長 新原 英宜、係長 清永 浩幸、主任 奥嶋 貴子

4 内容

(1) 会長挨拶

(2) 成長産業の創出・育成に向けた取組報告

別紙、資料3により事務局（中村課長）が内容説明。

— 説明に対する質疑 —

(3) 成長産業に関する令和6年度の事業概要（案）説明について

別紙、資料4により事務局（中村課長）が内容説明。

— 説明に対する質疑 —

(4) スタートアップ・プロジェクト紹介

ヘリックスエクステンション株式会社

代表取締役 富田 悟志（オンライン参加）による事業内容説明

(5) アドバイザリー機関による意見等

株式会社三菱総合研究所 主任研究員 佐々木 玄太氏による内容説明。

(6) 意見交換

【運営委員の主な発言概要】

- ・ 今後は、情報技術に加えて、日本のものづくりに対する優位性を活かし、モノとセンサーといった産業を興せれば、日本が復活できるように思う。
- ・ 今までの宇部の歴史がそのまま未来を形成するとは限らない。さらに次に続けていかないといけない。
- ・ 産業を育成するのは、お金も、時間もかかる。失敗しても、長期的な取組として進めていかないといけない。シーズのパイプラインを充実させていくことも必要である。
- ・ デジタル技術の利活用による生産性の向上、新たな価値の創出は、車の両輪となる。こうした宇部市の成長産業の創出、育成は必須のものである。
- ・ 弊社では、山口大学に研究員を派遣してる。成長産業創出の更なるスピードアップのためにも、こういった研究のために研究員をもっと増やさないといけないと改めて感じた。宇部にメインの会社のある企業として、地域との連携をより強化し、宇部市の発展に協力していきたい。
- ・ 宇部興機のときチャレの取組をYouTube で見た。ジャネックスや山口県産業技術センターといった様々な企業等と一緒に良い取り組みをされていた。1社だけではできない取組を協力して行うことは、今の時代には、とても大事になってきている。
- ・ 市や県と取り組んでいく中で、富田社長と巡り合い、新しい世界が広がった。大腸菌を使わないでこういうことができると提案して、いろんな会社に振り向いてもらえるようになった。今後は、国内への展開、海外への展開など、今まで以上に改良が必要になってくる。この他にも、産業技術センターのアドバイスも貰いながら、取り組んでいる案件がある。1機械メーカーとして、楽しくものづくりができる会社が宇部にもあるよ、とPR等も行っていきたい。
- ・ 物流業界は、2030年問題という課題があり、メディアでも注目されている。少子高齢化で2030年には、ドライバーがいなくなり、36%の荷物が運べなくなるといった問題がある。物流ソリューションは、2026年には日本でも1兆円規模になるといわれている。生活に必要なものを運ぶことは地方でも必要である。物流現場に使えるようなシーズがあれば、会社を紹介できるし、一緒にできるものがあるかもしれない。

- ・山本前知事が、やまぐち産業振興推進計画を作り、医療、次世代技術、環境などへの支援体制を作った。宇部市が取組を始めたことで、活動に厚みが出た。市のイノベーションプロジェクトについては、自己負担部分を出すようになってから、宇部市の企業申請が倍増した。宇部市の企業の活性化に寄与している。
- ・医療分野の事業化は、3年程度では難しい。次の医療は、他家細胞がメインになってきている。山口大学の先生からも、山口県や宇部市のため頑張りたいという声も聞いている。
- ・販路開拓支援事業で宇部市に協力している。展示会への出展のサポートをしているが、展示会はスタートであると考えており、フォローアップをしていく。客と繋がり、商談会に来ていただく。こういった取組をしていきたい。
- ・宇部市は、産技や高専などの地域の特長を活かし、目に見える成果が出ている。市では、山口大学が新たに設置した細胞デザイン医科学研究所に、研究開発拠点に対する支援を行われる予定である。山口県も意欲的な取組を連携しながら地域やイノベーションの促進に取り組んでいきたい。

(5) まとめ（会長）

新しいシーズを育てていくには、時間コストはかかる。段階に応じて、新しい課題も出てくるので、しっかりと対応していかないといけない。

協議会の取組をスタートして、3年が経ち、3つのプロジェクトを中心に色んな動きが出てきているものの、まだ芽が生えてきた状況だと思っている。最終段階は、人が集まってきて、新たなまちが形成されることである。それを産むための産業、仕事を創ることがこの成長産業だと考えている。最終段階に向けて、次の段階として、いかに地元企業と繋がり、金融機関も加わり、いかにお金が回ってくるか、というような動きが出てくる必要がある。うまくいかないことも、ビジネスの世界では当然のようにあるし、課題も出てくる。新年度は引き続き、地元の企業とより連携が深まっていくこと、また、新しい研究シーズがより新しいプロジェクトとして立ち上がってくるよう、さらに注力していきたい。

少し分野は違うが、昨年の秋、県は次世代技術（産業）への投資を拡充するとしてプログラムを発表した。本市としても、コンビナートや企業の中で、そういった動きがあれば、本市としても、しっかりと応援していくプログラムを令和6年度に実施することを既に発表している。

産学公金すべてが力を合わせて、この成長産業の創出をしていくことが、持続的なまちづくりを進めていく上で一番大事と考えているので、引き続き、委員の皆様から忌憚のないご意見をいただきたい。今回の運営委員会の内容もしっかり反映させていきたい。

それでは、今回ご説明した協議会の事業内容等につきまして、ご了解いただけますか。

→ 異議なし

【取材 宇部日報社、防長経済新聞社】

【配付資料】

- ・ 運営委員会委員名簿
- ・ 配席図
- ・ 成長産業の創出・育成に向けた取組報告
- ・ 成長産業に関する令和6年度の事業概要（案）について

資料1

資料2

資料3

資料4